

大里 普及だより

〈〈認定農業者向け情報誌〉〉

発行 埼玉県大里農林振興センター
農業支援部
熊谷市久保島 1373-1
TEL:048-526-2210 FAX:048-526-2494
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k15/>
E-mail k262210@pref.saitama.lg.jp



埼玉県の
マスコット
「コバトン」

埼玉県大里農林振興センター 所長あいさつ

大里地域の農業は、平成18年の農業産出額504億円と埼玉県全体の27%を占める県下有数の農業地域です。



その中で、892経営体の認定農業者が地域の担い手として活躍されています。

埼玉県では、平成27年度を目標とした「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」を策定し、農林業を収益力ある魅力的な産業として確立し、担い手の経営努力が活かされる環境づくりを進めています。

特に今年度は、担い手の更なる経営発展を目指した「農業経営の法人化」、次代を担う「新規就農者の確保」、農業の「6次産業化」に取り組むため、農林振興センター農業支援部内に新規就農・法人化担当を新設しました。

埼玉農業は、都市と農山村の魅力を同時に味わえる田園都市であることが強みです。大里地域はまさに農業の魅力にあふれた地域で、付加価値を付けた新たな販売方法開拓のチャンスがあります。

この「大里普及だより」は、認定農業者のための冊子であり、できる限り普及指導員が直接皆様にお配りするようにしています。

私たちは意欲ある農業者である認定農業者の皆様を応援します。是非ご相談ください。

この冊子が皆様の経営発展の一助となれば幸いです。

大里農林振興センター所長 根本洋介

農業法人紹介(シリーズ ①) 有限会社 中条農産サービス

熊谷市は、主穀作が盛んな米麦二毛作地域です。ここで活躍している経営体が(有)中条農産サービスです。

当社は、昭和58年に5戸の農家で機械利用組合を発足後、経営の合理化や規模拡大、後継者育成等を図るため、平成15年に法人を設立しました。

現在は、麦・水稻を各々60ha 手掛ける経営を行っています。

当社の特徴は、次のとおりです。

- ① 普通型コンバインや乗用管理機など大型機械化体系による省力化と適期作業を実現
- ② 稲わら・麦わらを畜産農家等に供給し、代替に家畜ふん堆肥をほ場還元する、循環型農業を実践
- ③ ホールクropp用水稻や飼料用米・米粉用米による、新たな水田転作作物の生産拡大と、農地集積による遊休農地の解消を推進
- ④ 後継者育成を念頭におき、若者を社員やパート等に積極的雇用したり研修生の受入れ
- ⑤ 水稻の麦間(立毛間)直播栽培の導入(平成24年約14ha)により、麦の収穫と水稻移植作業の労働競争を回避

これらの取組が評価され、平成21年度は「日本農業賞」埼玉県代表、平成23年度には優れた経営体に贈られる「全国担い手育成総合支援協議会長賞」を受賞しています。

今後は、主穀部門の一層の発展のほか、平成24年から始めたネギ40aの栽培等、露地野菜を取り入れた幅広い経営の確立を目指しています。



専用播種機の導入による水稻の麦間(立毛間)直播栽培

平成24年度の埼玉県農林部主要施策

平成24年度の農林部予算は、県民への食料安定供給、本県農林業の持続的発展を図るため「埼玉県農林業・農山村振興ビジョン」に基づく重要施策に積極的に取り組むことを基本的な考え方として編成されています。

主な施策は以下のとおりです。

1 「人・農地プラン」の策定について

力強い農業構造実現に向けて人と農地の問題を解決するための未来の設計図となる「人・農地プラン」の策定を行います。各市町村をいくつかの地域に分けて地域の特徴に応じたプランを策定していきます。

- ・今後の中心となる経営体はどこか。
- ・中心となる経営体への農地をどのように集めるか。
- ・兼業農家や自給的農家を含めた地域農業のあり方。

管内の3市町では24年度に全てのエリアで策定を予定しています。策定にあたっては、認定農業者の皆様のご協力をいただくようお願いいたします。

2 新規就農総合支援事業

(1) 就農支援準備給付金

研修機関で研修を受ける独立就農希望者や新規参入希望者に給付金を交付。(2年以内)

1人年間150万円

(2) 営農開始給付金事業

経営が不安定な就農直後の独立就農者や新規参入者に給付金を市町を経由して交付。

(5年以内)。

- ・45歳未満で独立・自営就農する方
- ・かつ「人・農地プラン」に位置づけられている方

3 埼玉こだわりブランド育成支援事業

他県産と差別化できる高品質生産を行う産地の活動を支援し、産地及び農産物の認知度や生産性を向上させ、全国に通用するブランド農産物の育成を図ります。

〈こだわり産地育成補助事業〉

本県の有利性が発揮できる「ブロッコリー」、「さといも」、「えだまめ」に着目し、それぞれの産地が行う特

徴あるブランドを作るための販売生産拡大活動を支援します。

- ・技術改善や生産販売協会のための機械整備
- ・販路開拓、販売促進活動の実践等
- ・補助率1/2

(1) さといもの例

県が新たに作出した「丸系八つ頭」を活用して面積拡大を図るための機械整備やPR活動。



「丸系八つ頭」左:親芋、右:子芋・孫芋
「八つ頭」から選抜した1個の親芋が500~1,000gになる 晩生の親子兼用品種。ホクホクした食感で皮をむきやすい形体

(2) ブロッコリーの例

スルフォラファン(がん予防に効果があるとされている)が含まれていることなどを活用したPRや機械整備。

4 原発事故に係る農畜産物影響調査事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の拡散による農畜産物等の汚染を分析・公表することで消費者の理解を求めています。

- ・農産物…週1回
- ・玄米・玄麦・大豆…年1回収穫期
- ・原乳…週1回 ・牛肉…月3回

今後、品目によっては、地域での検査が終了するまで販売を自粛していただく場合もありますので、御協力をお願いいたします。

5 狭山茶ブランド回復支援事業

放射性物質の検出によりブランドイメージが低下した狭山茶のイメージアップを図るため、狭山茶のテレビCM、駅・直売所等での試飲等を行います。

大豆の生産安定対策

近年、気温や降水などの気候変動が大きく、大豆においては発芽不良、落花、落莢が見られます。これらを回避、減少させるための栽培のポイントと安定生産をはかるための先進技術を紹介します。

1 は種前～は種時の注意

出芽、苗立ちの確保が安定多収のための基本です。

① ほ場の準備

大豆は湿害に弱いので、ほ場の排水対策が必要です。暗きよや地表水除却のため明きよの施工を行います。砕土、整地が不良な場合は出芽や苗立ちが悪くなるので、砕土は丁寧に行います。

② は種の準備

湿った土壤に乾いた種子(水分11%以下)をは種すると、急激に吸水して種子に亀裂が入り、出芽率が下がります。種子大豆は水分11%以下の場合が多いため、種子水分を15%程度に調整すると出芽率が上がります。種子の水分調整は、コンバイン収穫袋に入れ、ビニールシートで包み、中の湿度を上げる等の方法があります。

土壤中で様々な病原菌やタネバエなどが種子にダメージを与えるのを防ぐため、殺菌剤、殺虫剤を粉衣します。

2 生育期の管理

大豆の生育前半は雑草の発生が多く、生育量が大きいので、は種後土壤処理剤の使用や生育期茎葉処理剤の散布、中耕・培土により除草対策を行います。

① 雑草防除

は種後、大豆発芽前に土壤処理剤を使用します。その後発生した雑草には、雑草の種類を見極め、茎葉処理剤を散布します。雑草が大きくなり過ぎると除草剤の効きが悪くなるので散布適期を逃さないようにします。

② 中耕・培土

中耕・培土には、除草、排水対策、倒伏防止等の効果があります。開花期以降は根を切ったり、茎葉を傷つけるため、遅くとも開花期前までに行い、土を株元までしっかり盛ります。

3 干ばつの回避

大豆で収量を確保するには水稻並みの水量が必要です。干ばつがひどいと落花、落莢が発生し、青立ちが起こります

① 根域の確保

大豆の干ばつは、梅雨の多湿や耕盤の形成により根が深く張れないことが主な原因です。梅雨期に排水対策を徹底することや耕盤を破碎し根を発達させることにより干ばつ害を軽減することができます。

② うね間かん水

乾燥が続く、葉の水分が減少し、葉裏が見え始めたら、うね間かん水などを行います。数日に分けて徐々にかん水すると湿害になりません。粘土質のほ場で急激にかん水すると水口で湿害が発生することがあるので注意します。

4 耕うん同時うね立ては種栽培

「耕うん同時うね立ては種」は、は種時にアップカットロータリーで砕土し、うね立て、は種を一工程で行うものです。以下のような効果があります。

① うね立てによる湿害軽減

② 砕土性を高め、は種を安定させる

③ 耕うんとは種を同時に行うことによる発芽時の乾燥防止

④ 作業の一工程化による作業能力向上と作業途中の降雨リスク回避

写真のような専用の作業機を使用します。耕うん同時うね立ては種は、今年大里管内の現地(熊谷市、深谷市)で試験的に取り組みます。



うね立ては種機によるは種作業

(技術普及担当 作物担当)

きゅうり・トマトのウイルス病

1 アザミウマ類・コナジラミ類が媒介する

きゅうり・トマトのウイルス病

近年、施設きゅうり・トマトの栽培では、アザミウマ類によって伝搬される「キュウリ黄化えそ病」、コナジラミ類によって伝搬される「キュウリ退緑黄化病」、「トマト黄化葉巻病」の発生が多く確認されています。

これらのウイルスが原因の病気は、一度感染すると治ることはなく、収量や品質に大きな影響を及ぼします。また、感染株を放置すると周辺への感染源となり、さらに被害を拡大します。

近年、媒介昆虫は薬剤抵抗性が発達した系統が出現し、薬剤による防除が困難となっています。

感染の連鎖を断ち切るためには、感染株の処理と耕種の防除を含めた総合的な防除を産地ぐるみで取り組む必要があります。

2 媒介昆虫の生態

(1) ミナミキイロアザミウマ



- ・体長：雌成虫 1.2~1.4mm
雄成虫 0.9~1.0mm
- ・休眠はしないが、低温に弱い。
- ・施設では1年中発生する。
- ・発育適温の20℃~25℃の場合、卵から成虫になるまでの日数は約15日。

- ・生存期間は、25℃で約27日。
- ・卵は植物の組織内に生み込まれるため、肉眼では

判別できない。蛹の期間は土の中で過ごすので、薬剤防除が困難である。

- ・雌1頭あたり、82~94個の卵を産む。

(2) タバココナジラミ



施設栽培では、オンシツコナジラミとタバココナジラミが発生する。薬剤抵抗性の発達により急激に増えているのは、タバココナジラミ（バイオタイプQ）である。

- ・体長：約0.8mm
- ・卵から成虫になるまでの日数は、25℃で24日~25日。（バイオタイプQの場合）
- ・生存期間は約28日（きゅうりの場合）
- ・低温に弱く、野外で越冬は難しい。

3 防除のポイント(共通)

防除の鉄則は、次の3項目です。

- ①ハウス内に保毒虫を侵入させないこと。
- ②感染株・保毒虫を増やさないこと。
- ③保毒虫を外に漏らさないこと。

ウイルス病対策チェックリスト(簡易版)			
	耕種的防除を中心としたチェックポイント		重要度
環境整備	ハウス内外の雑草を除去する。(育苗ほ周辺は必須)		☆
	ハウス内に観葉植物や鉢花を入れない。		☆
	ハウス周辺に光反射シートを設置する。	育苗	◎
		本ほ	◎
	ハウスに紫外線カットフィルムを張る。	育苗	◎
		本ほ	◎
育苗	ハウス内に黄色粘着版を設置する。(開口部に多く)	育苗	◎
		本ほ	◎
	ハウス開口部に防虫ネットを設置する。 * 目合いが細かいほど通風が悪くなり、ハウス内の温度が上昇するので、換気扇、循環扇等の設備がなく、病気の発生や生育阻害が懸念される場合は、0.6mm~1mm程度のネットを使用する。	0.8mm目	○
	0.6mm目	○	
	0.4mm目	◎	
本ほ	発病株は早急にハウス外に持ち出して密閉処理する。 * 処理方法:ビニール袋に密閉処理して土中に埋める。		☆
	育苗後期に粒剤をポット処理する。		◎
	媒介昆虫の発生が確認されたら早急に薬剤処理を行う。		◎
収穫終了後	コナジラミ・アザミウマ類や感染株を持ち込まない。		☆
	観察早期発見による発病株の早期抜き取り、密閉処理を行う。		☆
	定植時に粒剤処理を行う。		◎
	コナジラミ類・アザミウマ類発生が確認されたら早急に薬剤処理を行う。 (ローテーション散布:同系統の農薬を繰り返し使わない。)		◎
	収穫終了前に、薬剤防除を行い、媒介昆虫の密度を下げる。 * 媒介昆虫を外に放出しない。		◎
密閉処理(蒸し込み)を行い、作物を確実に枯死させ、媒介昆虫を死滅させる。 * ハウス密閉処理(ハウス内40℃、10日以上密閉)		☆	

☆:必ず実施する事項

以下を参考に、ほ場のチェックをしましょう。

(技術普及担当 野菜担当)

これからの花植木販売と展示商談会の有効活用

1 花植木の販売力強化対策

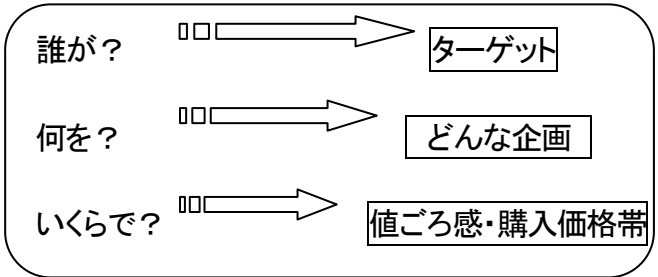
花植木経営では、販売力の強化が重要です。

(1) 消費者ニーズの把握

市場担当者や量販店のバイヤーの意見だけではなく、消費者の視点で考えることが大切です。実際に消費者の購入現場を観察します。

**マーケットが求める商品を求める価格で
生産することが重要です！**

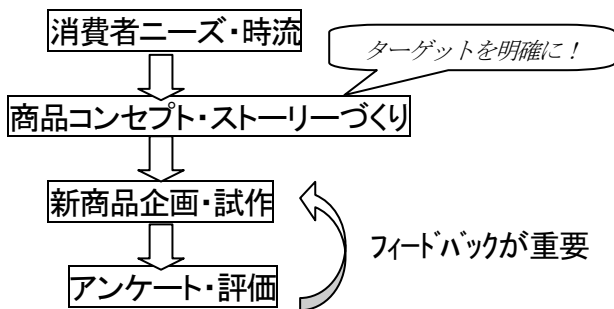
消費者ニーズとは



(2) 商品企画

把握した消費者ニーズに基づき、消費者ターゲットを設定し、商品コンセプトを立案します。

コンセプトに沿った仕様を詰め、具体的に商品を企画します。小ロットで生産・販売し、アンケート調査や、展示会等で関係者に意見を求めることで評価を得ることができます。



2 展示商談会の活用

多数の販売チャネルを持つことが経営の強みになるのはいうまでもありません。展示会は絶好の機会となります。展示方法を工夫するとともに、様々なツールを活用しましょう。

展示会では丁寧な接客を心掛け好印象を残すとともに、収集した情報に対しては、事後対応（電話連絡など）を心がけます。



・見本を並べただけのブース①と展示に工夫したブース②。
・農産物の素敵なディスプレイ③。

☆☆☆展示会で重要なPRツール☆☆☆

商品見本 実際の使用イメージが伝わるような展示を心がけます。

説明パネル 産地や生産現場の情報やストーリー性を付加し商品性を高めます。情報もりっぱな商品です。

チラシ・パンフレット 興味を持って手にとっていただけるよう、見やすいものでなければなりません。写真の質が資料の出来不出来を大きく左右します。

価格表・数量表 価格・数量などを明示して具体的商談に進みましょう。

アンケート アンケート記入とともに名刺をいただくとフォローアップを行いやすくなります。設問は絞り込みましょう。

名刺 印象に残るように特徴を出したデザインで作成します。

（技術普及担当 花植木担当）

畜産の暑熱対策と環境整備

1 暑熱対策

(1) 管理の基本

家畜の生育適温域を保つことにより、採食量の落ち込み防止を図り、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりを心がけましょう。経済面からも生産性の低下を防止します。生産性を維持するためには、畜舎環境と飼養管理の両面から暑熱対策を組み合わせる行うことが効果的です。

電力の供給不足懸念がありますので、機械等の点検・清掃を励行し、性能を維持することが、節電にもつながります。

(2) 畜舎の遮光

遮光被覆資材（よしず、カンレイシヤ等）を屋根や軒先に張り、直射日光や照り返しを防ぎます。また、軒先に、つる性の植物を這わせる“緑のカーテン”は遮光に加え、蒸散による温度低下の効果も期待できます。

(3) 畜体に風をあてる

畜舎の開口部を十分にとり、自然風を活用した風の流れをつくりましょう。障害物は取り除き、ダクト送風機、扇風機、換気扇等の送風機を利活用します。

牛への風速毎秒1～1.5メートルの送風により、体温と畜舎内の温湿度の上昇防止と牛床乾燥を図ります。

(4) 畜舎内の温度、湿度の上昇を防ぐ

風の流れによどみが生じないように、送風機の位置、角度を調整します。また、屋根に日中散水したり、屋根裏に断熱材を使用すると効果が上がります。簡易な方法として、石灰乳などを屋根に塗布し、太陽光の反射を促すことで、室温を2～3℃低下させることができます。白ペンキなどを利用すると効果が長持ちしますが、石灰乳に比べると高価になります。自分で塗布する場合は落下防止に配慮して下さい。

(5) 畜体への散水

送風機と組み合わせた細霧（滴下）装置により、家畜の体感温度を下げます。畜体などに付いた水が蒸発する際に気化熱を奪うことによる冷却効果です。送風と組み合わせ、過湿にならないよう注意します。湿度の低い日中から夕方にかけての散水がより効果的です。

(6) 飼養管理

消化性の良い餌や油脂類の添加、ビタミン、ミネラルの増給、給与回数の増加、夜間・早朝の給与割合の増加により、摂取量を確保します。

飲み水は常に低温で新鮮・清潔なものを与えます。暑熱時は飲水量も増えるので、給水量にも注意が必要です。

2 環境整備

(1) 気象予報

向こう1か月の気象予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多い予測が出ています。梅雨の時期は、衛生管理を徹底するとともに、畜舎内外の環境をきれいに保ちましょう。

(2) 苦情の動向

集落住民の方から、汚水の流失や、堆肥の悪臭やハエの発生等の苦情が、多くなる時期でもあります。苦情の約50%が悪臭です（23年度熊家保調べ）。最近では、市町の環境課や警察への通報の事例も発生しています。

(3) 堆肥、汚水の適正処理

機械や副資材等の不具合、不調達が生じる場合があります。保守点検や資材調達の確認を心がけます。

堆肥の発酵過程が乱れると、悪臭が発生します。汚水を河川の近くのほ場に散布還元する場合には、気象予報に気を配りましょう。

(4) 農作業改善

家畜の飼養管理を日々行っており、気になっていてもつい後回しにしていることが、一つや二つは思い当たるでしょう。事故防止のためにも出来ることから修理、改善しましょう。

(5) 美観対策

畜舎を清掃するとともに、今年は畜舎周辺に緑地帯や花の植栽を心がけましょう。

（技術普及担当 畜産担当）

農作物の放射性物質

1 新基準値について

平成24年4月1日から、食品中の放射性セシウムについて新たな基準値が施行され、以前の暫定規制値より厳しくなりました。

- 一般食品・・・100ベクレル/kg
- 飲料水や飲用茶・・・10ベクレル/kg
- 牛乳や乳児用食品・・・50ベクレル/kg

2 農産物等の調査について

県では、ほぼ週1回の頻度で県産農産物等の放射性物質を調査しています。当農林振興センター管内でも、今までに225検体（平成24年5月25日現在）の農産物等について調査しましたが、出荷制限等が必要となるような数値は測定されておらず、特に野菜は1年以上「検出せず」との結果が続いています。

県では、今後も調査を続けていきますので、生産者や関係機関の皆様のご協力をお願いいたします。

3 利用自粛等について

腐葉土、剪定枝堆肥、木炭等は、セシウムが蓄積している可能性があるため、引き続き利用自粛をお願いします。

技術情報ダイジェスト

本誌3面に掲載されている技術情報は、「主穀」「野菜」「花植木」「畜産」の4部門のうち、皆様の経営内容に合わせた部門の記事を掲載しています。

各部門では以下の内容で記事を作成していますので、本誌に載っていない部門の記事に御関心がありましたら、当センターにお問い合わせ下さい。

主 穀:「大豆の生産安定対策」

野 菜:「きゅうり・トマトのウイルス病対策」

花植木:「これからの花植木販売と展示商談会の有効活用」

畜 産:「畜産の暑熱対策と環境整備」

農家のお嫁さん対象の研修

当振興センターでは、農家に嫁いで前向きに農業に取り組んでいる方を対象に、今年度3回ほど、研修交流会を計画しています。

身近に、このような方がいたら、是非お声掛けをお願いします。

第1回 農業経営に参画しよう！

期日：平成24年7月13日（金）

午後1時30分～3時30分

場所：大里農林振興センター研修室

内容：

1 講演

「女性が農業を仕事にすること」（仮題）

講師：（社）農山漁村女性・生活活動支援協会
専務理事 齋藤京子氏

2 簡単手作りおやつを試食と紹介

担当：農業支援部 技術普及担当 青木

農業法人化相談窓口

当センターでは、法人化を目指す農業者の相談を受け付けています。

相談内容に応じて、生産技術だけではなく税理士、行政書士、社会保険労務士等、さまざまな専門家のアドバイスを無料で受ける機会も設定します。

「経営規模を増やしていきたい」

「経営規模が大きくなり、経理の把握が難しくなっている」

「地域の担い手として、今の農業経営をやる気のある人に引き継ぐ体制を考えたい」

「法人化により信用力を高め、自分の農産物を流通業者に売り込んでいきたい」等

このようにお考えの方は、大里農林振興センター農業支援部の普及指導員にお声かけ下さい。